

## 取組の概要

## 対象畜種

豚

## 協議会構成員

養豚農家、耕種農家、JA糸島  
(オブザーバー) 前原市、二丈町、福岡地域農業改良普及センター、福岡農林事務所

## 飼料用米生産面積

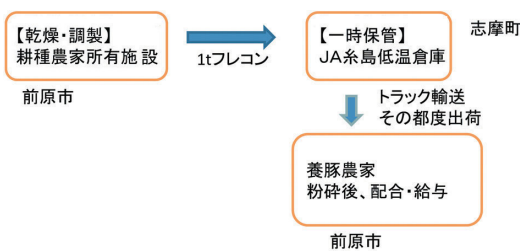
6.4ha

## 供試品種

タチアオバ 5.2ha  
タカナリ 1.2ha

## 取組内容

## ①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆耕種農家が自己所有施設で粳すりまで行い、JA低温倉庫に搬入・保管
- ◆養豚農家は順次倉庫まで引き取りに来て、農場で粉碎後、配合・給与。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査  
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：配合飼料に12%配合。肥育豚に対して仕上げの1ヶ月間給与。

調査項目：飼料用米の配合割合、給与量、嗜好性、出荷月齢、枝肉重量、格付け

## 取組によってわかったこと

## 1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 調製・流通・保管の段階で、大きな問題は生じませんでした。
- 耕種農家所有施設における乾燥～粳すりまでの間の保管スペースとJA低温倉庫の保管スペースに限界があるため、取組みの拡大は難しいと思われました。

## 2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 飼料用米配合飼料の嗜好性は従前の飼料と変わりませんでした。
- 飼料用米給与豚において肥育期間が少し伸びる傾向が見られました。
- 食味試験においては、食感の違いが顕著に現れました。参加者からは、飼料用米給与豚の方がやわらかくて美味しい、従前飼料給与豚の方が歯ごたえがあって良い等の意見が出されました。
- 脂肪色、肉色とも飼料用米給与豚の方が白くなりました。

## 3. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 今年度も昨年度同様の取組みを実施します。飼料用米の栽培や給与方法等未だ手探りの状態の中で取組んでいます。今後の定着のために、取組みに対する継続的な助成とともに技術の早期確立・普及が望まれます。また、販売面で飼料用米給与豚をどのように位置付けて行くのが今後の検討課題です。

JA糸島営農部農畜産課 山上 利治

参考データ・写真等



従前飼料給与豚（バラ）



飼料用米配合飼料給与豚（バラ）



従前飼料給与豚（ロース）



飼料用米配合飼料給与豚（ロース）